ナショナル補修用タイヤ取扱説明書

National

●取扱説明書をよくお読みのうえ正しくご使用ください。そのあと保存し必要なときにお読みください。
タイヤまたはチューブの交換に際しては専用の工具や専門知識が必要です。交換に際しては整備資格のある専門店に依頼されることをお勧め致します。自分で交換作業をされる場合は、分解 組立ての方法は自転車の種類によって異なりますので必ず作業前に自転車メーカーへお問合せください。

ご使用前に

▼この商品は自転車用タイヤです。他の目的には使用しないでください。
▼交換されるタイヤと同じ表示サイズか確認してください。
(例) W/O (①) 26 (②) x 1 3/8 (③)
①リムの種類(W/O、H/Eのいずれか)
②タイヤの直径(インチ)
③タイヤの巾(インチ)
▼タイヤの取りはずしや取りつけには必ず専用工具のタイヤレバー(別売)を使用してください。
※ドライバーなどを使用するとタイヤやチューブを傷つけます。
▼新品タイヤの交換時に、チューブ、リムテープ(別売)も新しいものと交換してください。
※リムテープとは、スポーク穴をふさぐためのゴムまたは樹脂製のバンドのことです(右図参照)
▼チューブのバルブ形式によって、取り替えかたが異なりますので、必ず形式(英式 仏式 米式)を確認してください。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

⚠警 告

タイヤの空気圧は標準空気圧以外では使用しない
タイヤのリム外れ、ひび割れ、偏摩耗、バーストの原因となります。

■タイヤ装着時リムに油やワックスを使用しない
走行中にタイヤがはずれて転倒の原因となります。

■タイヤの空気圧はタイヤに表示されている標準空気圧にしたがう
パンクによる転倒の原因となります。

■走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検する
パンクによる転倒の原因となります。

■改造はしない
タイヤが破損して転倒の原因となります。

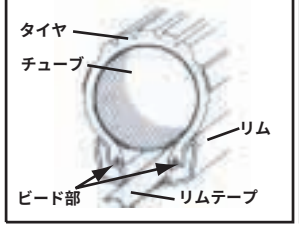
お願い

●タイヤの空気圧チェックは走行前に必ず行ってください。
※空気の入れ過ぎや低圧使用はタイヤの破損やパンクの原因となります。必ず標準空気圧に従ってください。
●ブレーキゴムがタイヤ側面に当たらないようにつけてください。
●直射日光や雨の当たる場所に置かないでください。
●ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
●ガソリン 有機溶剤 油類のあるところに置かないでください。
●取扱い等おわかりにならないときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室」にお問い合わせください。

お客様相談室 フリーコール 0088(22)5381

正しいタイヤの取り替えかた

タイヤ各部名称

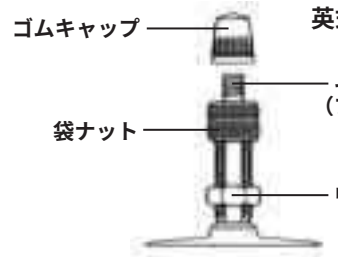


必要な道具

※タイヤレバー ポンプは当社オリジナル製品をおすすめいたします。

タイヤの取りはずしかた (英式バルブチューブの場合)

英式バルブ各部名称



①バルブのゴムキャップと袋ナット、リムナットをはずし、ムシ(プランジャー)を抜き、空気を抜いてください。

②ビード部にタイヤレバーを差込んで矢印の方向に倒してください。
※このときチューブを傷つけないように、タイヤレバーはビード部のみにかけるように注意。

③リムに沿って20～30㎝程度、②の作業を繰り返しながらビード部をはずし、残りのビード部を指ではずしてください。

④片側のビード部全体をリムからはずし、バルブ部分を残してチューブを取り出します。

⑤タイヤと、チューブのバルブ部分とをいっしょにつかみ上げ、もう片方のビード部をリムからはずします。

タイヤの取りつけかた (英式バルブチューブの場合)

①タイヤにチューブのバルブ部分をはめ込み、リムのバルブ穴にチューブのバルブを通してください。

②リムに沿って片側のビード部を徐々にリムにはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。

③チューブをタイヤの中に入れてください。
※このときチューブをねじったり折り曲げたりした状態でむりにタイヤに押し込まないように注意。

④もう片方のビード部をバルブの反対側(図の矢印の位置)からリムに沿って徐々にはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。

⑤バルブ部分へのビード部はめ込みは、チューブがはさまらないようにバルブを図のようにリムの内側に、2～3回軽く押し込んでください。

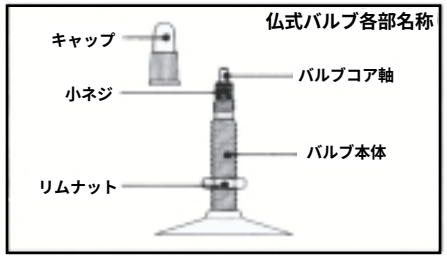
⑥バルブにリムナット、ムシ(プランジャー)、袋ナットの順に取りつけてください。
※リムナットを締める際、スパナなどは使わず、必ず指で締めるようにしてください。

⑦空気をすこし入れてビード部がリムに均一にはまっているか点検してください。均一でない場合は、空気を抜いて手でもんで調整します。調整の後、空気を徐々に入れてください。

⑧空気圧はタイヤの側面に表示された標準空気圧(推奨空気圧)か、タイヤを指で押しても簡単にへこまない程度(軟式野球ボール程度の硬さ)になるまで空気を入れてください。最後にバルブのゴムキャップをつけて終了です。

○2000 ナショナルタイヤ株式会社

タイヤの取りはずしかた（仏式バルブチューブの場合）



①バルブのキャップとリムナットをはずし、バルブコア軸の小ネジを緩め、軽く押し込んで空気を抜いてください。

②ビード部にタイヤレバーを差込んで矢印の方向に倒してください。
※このときチューブを傷つけないように、タイヤレバーはビード部のみにかけるように注意。

③リムに沿って20～30cm程度、②の作業を繰り返しながらビード部をはずし、残りのビード部は指ではずしてください。

④片側のビード部全体をリムからはずす。その後バルブ部分を残してチューブを取り出します。

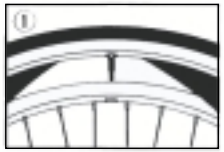
⑤タイヤと、チューブのバルブ部分とをいっしょにつかみ上げ、もう片方のビード部をリムからはずします。

■商品に関するお問い合わせは・・・

お客様相談室
フリーコール 0088(22)5381

タイヤの取りつけかた（仏式バルブチューブの場合）

①タイヤにチューブのバルブ部分をはめ込み、リムのバルブ穴にチューブのバルブを通してください。

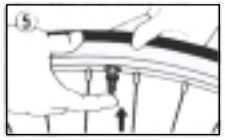


②リムに沿って片側のビード部を徐々にリムにはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。

③チューブをタイヤの中に入れてください。
※このときチューブをねじったり、折り曲げたりした状態で無理にタイヤを押し込まないように注意。

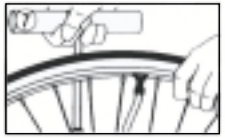
④もう片方のビード部をバルブの反対側(図の矢印の位置)からリムに沿って徐々にはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。

⑤バルブ部分へのビード部はめ込みは、チューブがはさまらないようにバルブを図のように2～3回軽く押しながらビードをリムの内側に込んでください。
※ビード部を両側ともはめた後、リムとビードの間にチューブがはさまっていないか必ず両側のビード部を点検する。はさまれたままだと空気を入れるとパンクします。



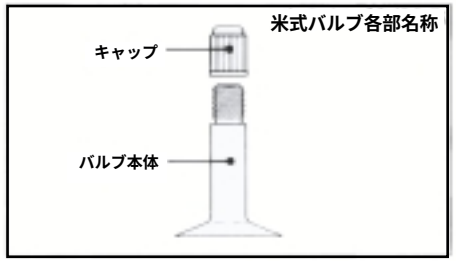
⑥バルブにリムナットを取りつけてください。
※リムナットは必ず指で締める。

⑦空気をすこし入れて均一にはまっているか点検してください。均一でない場合は手でもんで調整します。調整の後空気を徐々に入れてください。

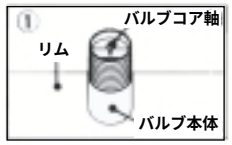


⑧空気圧はタイヤに表示されている標準空気圧に従ってください。空気を入れた後小ネジを締め、最後にバルブのキャップをつけて終了です。

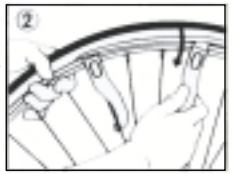
タイヤの取りはずしかた（米式バルブチューブの場合）



①バルブのキャップをはずし、右図のバルブコア軸を細い棒で押し空気を抜いてください。



②ビード部にタイヤレバーを差込んで矢印の方向に倒してください。
※このときチューブを傷つけないように、タイヤレバーはビード部のみにかけるように注意。



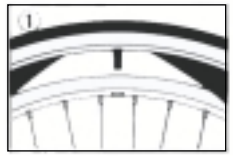
③リムに沿って20～30cm程度、②の作業を繰り返しながらビード部をはずし、残りのビード部は指ではずしてください。

④片側のビード部全体をリムからはずす。その後バルブ部分を残してチューブを取り出します。

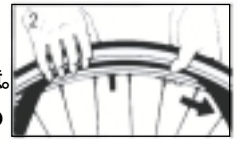
⑤タイヤと、チューブのバルブ部分とをいっしょにつかみ上げ、もう片方のビード部をリムからはずします。

タイヤの取りつけかた（米式バルブチューブの場合）

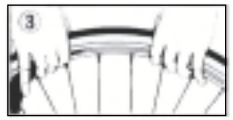
①タイヤにチューブのバルブ部分をはめ込み、リムのバルブ穴にチューブのバルブを通してください。



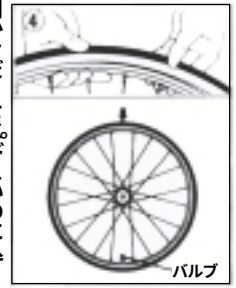
②リムに沿って片側のビード部を徐々にリムにはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。



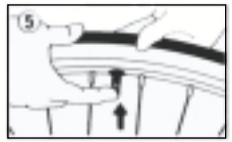
③チューブをタイヤの中に入れてください。
※このときチューブをねじったり、折り曲げたりした状態で無理にタイヤを押し込まないように注意。



④もう片方のビード部をバルブの反対側(図の矢印の位置)からリムに沿って徐々にはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。



⑤バルブ部分へのビード部はめ込みは、チューブがはさまらないようにバルブを図のように2～3回軽く押しながらビードをリムの内側に込んでください。
※ビード部を両側ともはめた後、リムとビードの間にチューブがはさまっていないか必ず両側のビード部を点検する。はさまれたままだと空気を入れるとパンクします。



⑥空気をすこし入れてビードがリムに均一にはまっているか点検してください。均一でない場合は手でもんで調整します。調整の後空気を徐々に入れてください。

⑦空気圧はタイヤに表示されている標準空気圧に従ってください。最後にバルブのキャップをつけて終了です。

ナショナルタイヤ株式会社　タイヤ事業部
〒669-3464　兵庫県氷上郡氷上町石生250